

## 令和5年度 学校教育・家庭教育に関するアンケート結果

日頃より本校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。

学校教育・家庭教育に関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計結果がまとまりましたのでお知らせいたします。保護者の皆様のご意見を真摯に受け止め、来年度以降の学よりよい学校づくりを目指していきます。(アンケートの回収率 約38%)

本校の教育活動、ご家庭での家庭教育の状況について、当てはまるところに○印をご記入ください。

A「そう思う」 B「どちらかといえばそう思う」 C「どちらかといえばそう思わない」 D「そう思わない」

学 校 教 育 に つ い て					
評価項目	評価内容	A	B	C	D
【生きてはたらく知】	学校は、分かりやすい授業を行い、子どもが主体的に学習できるよう努めている。	28	65	5	2
【豊かな心】	学校は、今年度の児童会テーマ「上末っ子でつなごう!!きずなバトン」の実現を目指して、行事やフレンズ活動、集会活動等が実践できるよう努めている。	39	57	4	0
【健やかな体】	学校は、休み時間を確保するとともに、体育の授業や運動会を充実させ、子どもたちが体を動かすことの気持ちよさを味わえるよう努めている。	35	55	9	1
【自分づくり】	学校は、人や物と子どもが出会う活動(本物体験)を行うとともに、その活動の事前・事後指導もしっかりと行い、子ども自身が自らの成長を実感できるよう努めている。	35	56	6	3
【いじめへの対応】	学校は、教職員がチームとして子どもの様子を多面的に見取り、安心できる環境をつくりだせるよう努めている。	31	50	16	3
【特別支援教育】	学校は、家庭と連携しながら、様々な指導場面で子どもたち一人ひとりに寄り添った支援に努めている。	36	48	12	4
【児童指導】	学校は、いろいろな教師が子どもたちの指導を行えるよう連携し、一人ひとりが安心して過ごせる環境づくりを心がけている。	25	60	12	3
【学校の特色】	学校は、コロナ禍の影響で制約のあったフレンズ活動や児童会活動、学校行事を再開させ、子どもたちの主体的活動の推進に努めている。	40	56	4	0
【情報教育】	学校は、発達段階に応じて情報端末を授業で生かせるよう努めるとともに、メール配信でのお知らせや学校ホームページでの情報発信に努めている。	30	57	11	2

### 学校教育について **考察**

【生きてはたらく知】【豊かな心】【健やかな体】【自分づくり】【学校の特色】については、A そう思う、B どちらかといえばそう思うの割合が90%を超えているため、効果的な教育活動ができているといえる。特に、【豊かな心】【学校の特色】は、96%と高い評価を得ていることから、今後も子どもが主体的に取り組めるフレンズ活動や児童会活動をより充実させていきたいと考える。

【いじめへの対応】【特別支援教育】【児童指導】【情報教育】について引き続き、一人ひとりに寄り添った支援、安心して過ごせる環境づくりを検討していく。

家庭教育について					
評価項目	評価内容	A	B	C	D
【生きてはたらく知】	子どもが学校の宿題や家庭学習、読書等に取り組むために、時間を確保したり意識的に働きかけたりするよう努めている。	24	59	15	2
【豊かな心】	「おはよう」「行ってらっしゃい」等の挨拶や「ありがとう」等の思いを伝える言葉を意識的に交わすよう努めている。	54	39	5	2
【健やかな体】	早寝、早起き、バランスのとれた食事等、健康な生活を送るための環境を整えるよう努めている。	39	54	7	0
【自分づくり】	子どものよさや頑張りを認めて声をかけたり、子どもと向き合う時間を意識的に作ったりするよう努めている。	37	57	6	0
【いじめへの対応】	子どもの思いに寄り添いながら話を聞ける関係を築けるよう努めている。	35	58	6	1
【特別支援教育】	子どものことについて、家庭で困り感を抱えた際、安心して相談できる人をイメージできる。	31	54	11	4
【児童指導】	子どもが安全に安心して過ごすために、まずは子ども自身が社会のルールを守れるように教える機会を設けている。	36	58	6	0
【学校の特色】	学校での活動に興味をもっていることを子どもに伝え、子どもが学校での出来事を話せる雰囲気を生み出すよう努めている。	30	65	5	0
【情報教育】	ゲーム機や携帯電話の使い方、SNSの利用の仕方などについて、子どもがルールを守って使用できるよう話し合ったり、決まりを設けたりしている。	42	50	6	2

## 家庭教育について考察

【豊かな心】【健やかな体】【自分づくり】【いじめへの対応】【児童指導】【情報教育】については、A、Bの割合が90%を超えているため、家庭での支援が十分できているといえる。特に、【豊かな心】については、A そう思うの割合が54%もあることから、家庭での挨拶や思いを伝えることが日常的に行えている様子がうかがえる。子どもたちの情緒の安定のために、今後も継続していくことが望ましい。

【生きてはたらく知】【特別支援教育】は、家庭学習や読書等の時間の確保、安心して相談できる人を見つけることが、今後の課題といえる。【情報教育】については、家庭教育の評価は比較的高いが、学校教育における【情報教育】項目と若干の差が見られるため、情報端末の使用方法については、引き続き、学校と家庭との連携を図っていく必要があると考える。